

学校における働き方改革推進について

(共有資料 part3)

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 枚方市立小・中学校の勤務実態 | (P1) |
| 2. 対談(学校の働き方改革はなぜ必要か) | (P2) |
| 3. 意識改革 | (P5) |
| 4. 持続可能な取組にするために | (P7) |
| 5. 業務改善推進校の取組事例 | (P9) |
| 6. 業務アシスタント活用事例 | (P12) |
| 7. タブレット活用事例 | (P13) |

資料:働き方改革の目的・取組(共有資料part1より)

令和3年3月

枚方市教育委員会 学校教育部 教職員課

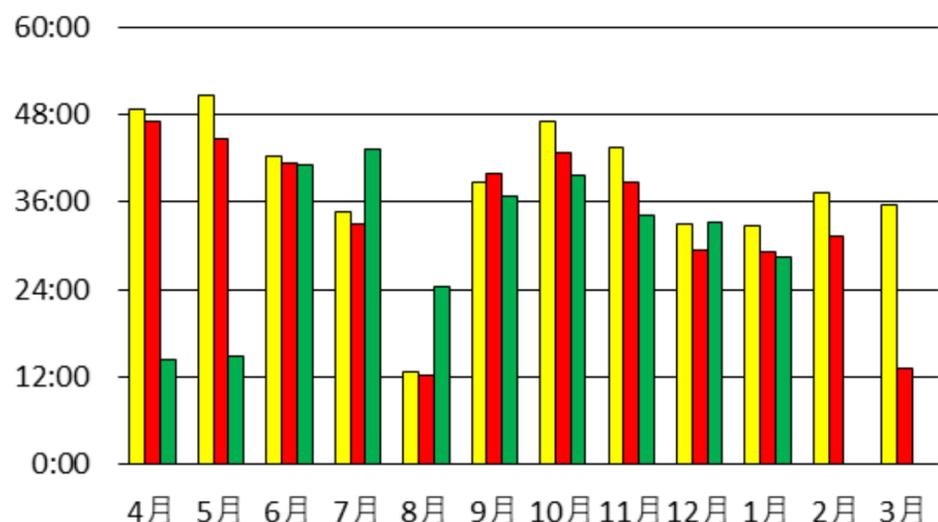
♪枚方市教育委員会 教職員課ブログ→→



枚方市立小・中学校教職員の時間外勤務時間

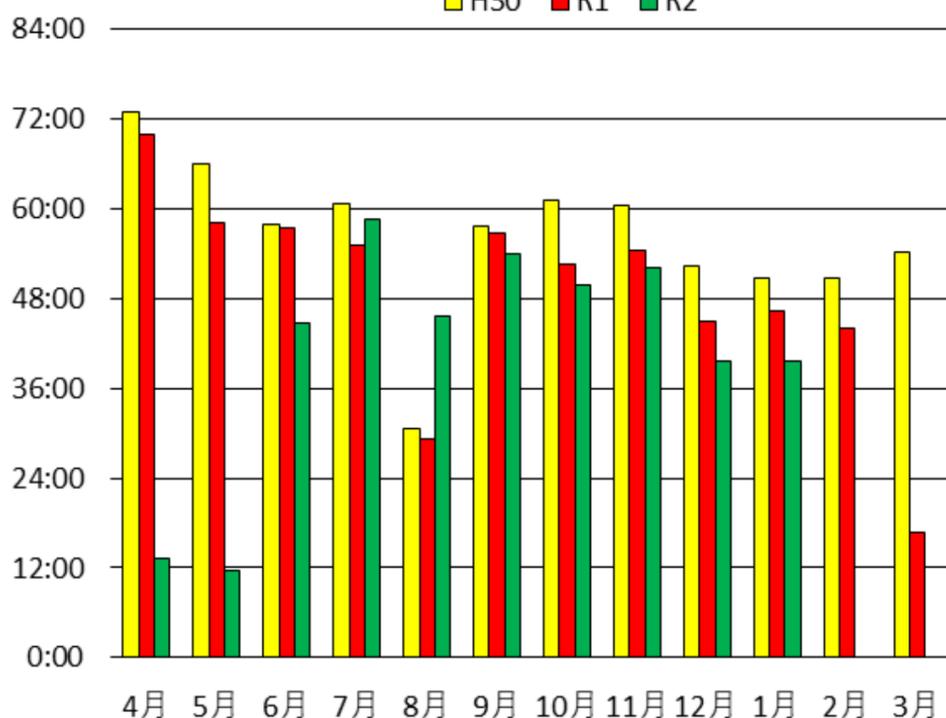
小学校時間外平均時間

■ H30 ■ R1 ■ R2



中学校時間外平均時間

■ H30 ■ R1 ■ R2



(※平成30年4月から令和3年1月までのデータ)

個別データでは、

時間外勤務時間が月当たり 100h以上

80h以上100h未満

60h以上80h未満

45h以上60h未満

45h未満

(H30)

4.4%

6.9%

14.9%

17.3%

56.5%

(R1)

3.2%

5.2%

12.8%

15.5%

63.3%

(R2)

1.5%

3.9%

11.6%

14.3%

68.7%

令和2年度 業務改善推進校(伊加賀小学校)の勤務実態

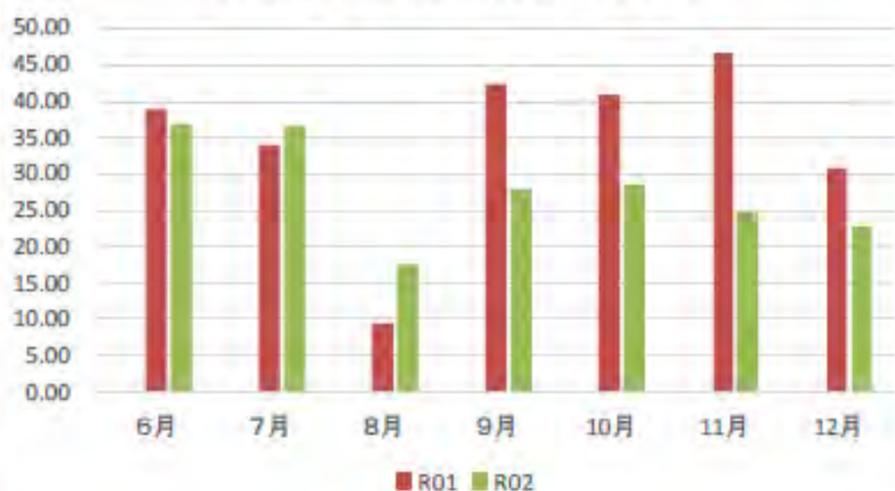
★時間外勤務の時間数(6~12月)

令和元年度



令和2年度

時間外勤務時間の1人あたり平均



横田校長先生に聞きました!

最後に退勤する職員の打刻が昨年に比べて約1時間早くなりました。これは全体として職員の勤務時間意識が高いことと、職員一人ひとりが業務のタイムマネジメントをしている結果と言えます。

教員が教員としてやるべきことに専念してほしい、ワークライフバランスを意識し、勤務以外の時間も大切にしてほしい、それが当初から現在まで変わらず職員に発信していることです。

「ああなったらいいな」をどうしたら実現できるか、誰がどう動くか、学校単位でそれを実現するために、コミュニケーションをとりながら職員のモチベーションを支える。これが管理職の役割りだと思っています。自分たちの出した案が実現し、結果を体感し、みんなのモチベーションが上がった結果が、指標の1つである勤務時間数の変化に現れたのだと思います。

学校の働き方改革は、なぜ必要か

——大船校長先生も若田校長先生も、文科省の業務改善加速事業のモデル校の校長としての経験をお持ちで、現在は、菅原東小学校と蹊跼中学校で取組を進めておられます。よろしくおねがいます。

——昨年度より、枚方市は、業務改善推進校を立候補制としています。立候補した理由を教えてください。

【若田】楠葉中の校長時代に、先進校視察をした際、学校と地域や保護者が共に、学校の業務改善を進めているのを見て、素敵だと感じました。それを、少しでも自分の学校でもやろうと。

【大船】同じです。樟葉北小の校長時代から、現在も変わりません。時間的にも気持ち的にも、余裕をもって子どもたちの教育に向かう環境づくりをしたいと強く思ったからです。

——学校の働き方改革はなぜ必要ですか。

【若田】先生たちは、時間を気にせず頑張るところがあります。でも本来、教員は、教科教育・子どもたちの人間関係づくりに一番時間をかけたい。そこに集中できない現状に課題を感じます。授業研究の時間・子ども理解の時間に一番時間をかけるためには、働き方の見直しが必要です。

【大船】先生たちって、子どものためとなれば、労力をおしまない。勤務時間という意識がなくなってしまうたりもする。ただ、それで疲弊しては意味がない。そこを改善するためには、学校での業務改善



大船純之 菅原東小学校長

は必要だと思いましたが。

——学校現場がブラックだと報道されることも多いですが、いかがですか。

【若田】教員はブラックだと思っ
ていなかったりもする。一生懸命頑張っている。ただ、時間的なこととか内容をみるとブラックだと思われると思います。

【大船】私も同じです。第三者が見たらブラックですかね。語弊があるかもしれませんが、時間外勤務手当もないようなものですしね。そういうことも影響して教員になりたい人が減っているということもありますし。

【若田】「この働き方は変じゃないの、と配偶者（一般企業勤務）に言われてしまいました」と言っている教員もいます。

【大船】経験上、時間を惜しまず仕事して、それが頑張っている、やりがいと思ってしまうところもあるかもしれませんね。

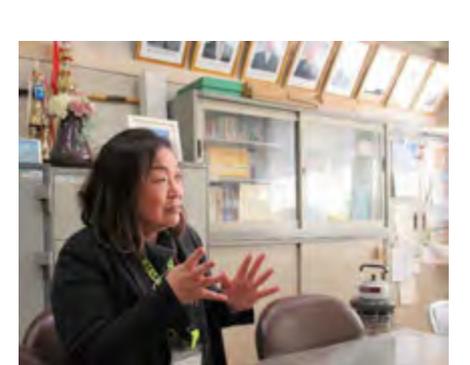
【若田】中学校は、土日、クラブをやり続けてきた。「枚方市中学校部活動方針」を守った時に、「もっと部活動指導してほしいの」というご意見が出たのは正直なところ。今までやってきたことを変えていくには、様々な方の理解を得ていくことが必要です。部活の休養日等は、先生がお休みするだけでなく、

子どもが家庭にかえることも大切に考えられているもの。おうちでの過ごし方も考えていくことになっている。

——今年、コロナ禍で、部活動も制限がありました。そこから見えたことはありましたか。

【若田】午後6時まで部活動指導して、そこから授業準備して、午後9時に学校を出るみたいな生活していた先生たちが、正常な時間に家に帰って、本を読んだり、子育てしたりする時間の過ごし方をしました。今まで部活動指導をしていた時間に、授業研究するようになったことも大きいです。今までより授業研究ができる喜びはあったと思います。コロナ禍で苦しさもあったが、良い気づきもありました。最近ではオンライン研修が増えたので、それで学ぶ教員が増えました。

——枚方市の教職員の時間外勤務時間は、平成29年から少しずつ減っています。しかし、過労死ライン80時間を超える教員が約5%いて、数で言うと100人を超えていることが課題です。



若田淳子 さだ中学校長

【若田】100時間を優に超えていた人の数が減った実感はありますが、80時間のラインは、土日に部活動指導をしたら、すぐ超えてしまう

んです。これを改善しようと思えば、やはり部活動指導の在り方を変える必要があります。

【大船】小学校は部活動指導がないので、意識を変えることや改善をすることで、時間外の削減はできてきたとは思っています。ただ、ICT活用など、新たな取組への研究が必要となっているので、簡単ではないです。それでも常に、業務を見直す意識を持つことを大切にしています。

——文科省からは「今まで学校が担ってきた業務を仕分けする」ことが必要であると示されています。

【大船】研修をもらった時に、学校運営協議会委員さんやPTA本部さんが一緒に参加してくれたことは大きかったですね。今、業務アシスタントさんが印刷業務をしてくれているけど、「私たちもできるよ」とか、「登校指導を協力するよ」とか、「メンテナンスタイムもできるよ」とか大きかったです。あのよな研修の中で、教職員の勤務の実態を知ってもらい、話し合うことで、コミュニティやPTAとして、子どもたちのために、一緒に何ができるかなと考えるてくれました。

——地域・保護者・学校がそれぞれ別々に考えるのではなく、共に考えて、どう分担できるのかなと考えることって効果的ですね。

【若田】中学校になると、体も大きくなっているし、ある意味、接しにくい面も出てくるかもしれません。顔見知りであるかどうか大きいのもかもしれません。中学生は大人への成長の過渡期だから、地域に守られてきた側から、守る側が変わっていく時とも思います。そういう意味で、地域のためにあなたたちが

役立てることって何？と問いかけるようにしていくのが学校の役目かなと考えますね。

【大船】子どもたちが地域に発信していく、地域貢献できたなら、つながりや関わりが深まるなと思います。子どもたちを知ってもらおうと言っても、突然、

地域行事に参加して、お客さん状態で意味がないですよ。先程の、印刷もするよ、見守りもするよ、みたいに、学校と外との垣根を低くして、授業時間中にもいい関わりができるような機会づくりができるように思います。

——昨年度、市教委から「電話応対時間のお知らせ」を出しました。このように、電話応対時間に区切りをつけたことによる効果や保護者の反応はどうですか。

【大船】昨年度(樟葉北小)は、コミュニティとPTAに丁寧に説明しました。そしたら、「そりゃ一般企業では当然のことですよ。」と言ってもらえたり、



菅原東小学校:校内座談会。限られた時間の中で、子どもたちとの時間を増やすためにどうすればいいか、ざっくばらんに考えを交流。

逆に「そんな遅くまで電話応対しているんですか。」と驚かれたんです。そのような中、学校の実情を説明して、理解を得たからスムーズにできました。

【若田】本校だったら、最終下校から30分後までが電話応対時間です。季節で変わります。保護者の大半は理解を示してくれています。ただ、今まで学校は何時でも電話応対してきたのが変わるわけなので、丁寧に説明し、ご理解いただくことは必要です。最近では、電話応対時間外に電話がかからなくなってきました。先生たちは、仕事に集中できると言っています。

【大船】集中して業務に没頭できる環境であることはありがたいです。

——最近、電話応対時間のお知らせを出したことで、保護者とお電話した時に「先生まだ残ってたんやね、お疲れ様。」とか「遅くにすみません」という一言が増え、すごくホッとするという話が聞けました。

【若田】うんうん、そういうのいいね。そういう関係性であることって、お互いにいいよね。

【大船】それは素敵な話ですね、嬉しいですね。——先程、地域との関わりのお話がありましたけど、こんなふうに学校への関わりがあれば嬉しいなと思うことありますか。

【若田】子どもたちって地域の子だから、地域での役割をぜひ与えてあげてほしいなと思う。中学生だと、部活とかで忙しくて、なかなか家にいる時間が少ないので難しいこともあるんですけど、でも、部活がすべてではないから、地域での活動で学ぶこともたくさんあるはずですよ。

【大船】我が子も他の家庭の子も一緒のように関わってほしいなと思っています。プライベートに関わるかなと心配することもあるのだろうなと思います。が、子どもたちは、地域と家庭と学校、みんな育てていると思っています。

【若田】そうですね。学校だからできることはあるから、国語や数学やという学びや同年代の子もたちとの関わりでの学び、そういうことは学校でしっかりやっていきたいです。

——推進校として取り組んだことで、教員の意識が変わったと感ずる場面はありましたか。

【大船】各分掌で会議をした際に、業務改善に関連させて話を進めています。本校の場合は業務改善とユニバーサルデザインをリンクさせているので、その視点も含め、その2点を軸に、さまざまなことを考えていくようにしています。

【若田】いろいろな会議の場面で、今までの当たり前を見直し、精査するようになりました。前例踏襲でやっていく必要はないんだという意識が変わっている。今年、PTA役員さんも意識しています。会長さんともいろいろ話しているので、こういう機会だから、参加しやすいPTAについて考えようとなつたんです。

【大船】なるほどね。

——教員からの考えが出た時に、それを実行しようとなるということですか。

【若田】なくすにしても、変えるにしても、良い点や課題点を明らかにして提案されたことなら、「やってみようか」となりますね。

【大船】柱は管理職が伝えて、それに対する取組の提案をさせる。それこそボトムアップで。最終、責任取るのは校長やからなど。いいと思うことはどんな提案をと言っています。前任校でも本校でも、座談会的なものを行い、教員の考えを聞くことを大切にしていきたいという思いが強くなります。子どもたちにも主体性を育てている教員たちこそ、主体的に考える人でないと。その方が、責任は重くなりますが、充実感や喜びも大きくなると考えています。

——どちらの学校も意識が変わっている。常に改善するという視点で部会の一つの提案を見ることができるといふこと。

【若田】一番学校が大事にしたいことを明らかにして、それを達成させるためにどんな方法があるのかと考える中に、精査するという視点も入ってくるのだと思います。単に残業を短くといつても、なかなか理解を得ることは難しいですが、「一番にやることはこれだ」と、授業のことも含めて話していくと、じゃあ、自分たちもそういう視点をもって話しますと変わってきたんだと感ずます。

【大船】子どもたちにとってより良いことは、と考える。そうしたら、先生たちからいろいろなアイデアが出てきます。

【若田】子どもが中心だね。同時に、先生たちも自分を磨く時間とか、学校以外の時間（家族のことや子育て）を大切にしたい。それで勉強できることもたくさんあるから。子どもたちも先生たちも、学校だけが自分の世界になってはいけないですよ。いろんなところとつながっているいろんな考えを吸

収していくべきだと思えます。

【大船】本当にその通りだと思えますね。

【若田】子どものためにと思うのであれば、自分が豊かにならないと。

【大船】自分の時間を持つことも大切にしていくことが必要ですね。

——最後ですが、これから働き方の見直しを始めるという学校に一言。

【大船】業務改善って、難しいことではないと思うんです。なんでも良いから、まず一つ実行する。そして、ああよかったという体験を先生たちと共にする。それが次につながる。

【若田】管理職は、「これやります。」と言い切ることも必要です。今までと違うことをするときには必ず賛成も反対もある。ただ、目的をしっかりと持って、これについて頑張りましょうと話していくことをこれからも大切にしていきます。



蹊田中学校：整然と並ぶ道具。枚方一番の大規模中学校のため、職員室の

窓も見えないくらい物がたくさんある状態でしたが、クリーンな空間に！

意識改革 (業務改善推進校)

教職員対象研修

研修講師: (合) 先生の幸せ研究所 澤田真由美代表

9/24 交北小学校 (推進校)



まず、自分にできることは、時間を意識すること

業務改善は、時間短縮のことばかり思っていました。が、ストレスなく働くためという話がしっくりきた。

「傍観者」ではなく、「当事者」で、

さらに、当事者は自分1人ではなく、仲間もいる。

何が本当に必要かを考えることができた。当たり前と思っていることへの意識を変えたい。

10/7 蹉跎東小学校 (推進校)



本日考えたことを次の企画までに提案することです。さっそく行動に移します。

本当に変えようという気持ちをもって話し合えば、実現可能なアイデアは生まれてくる。

11/25 菅原東小学校 (推進校)

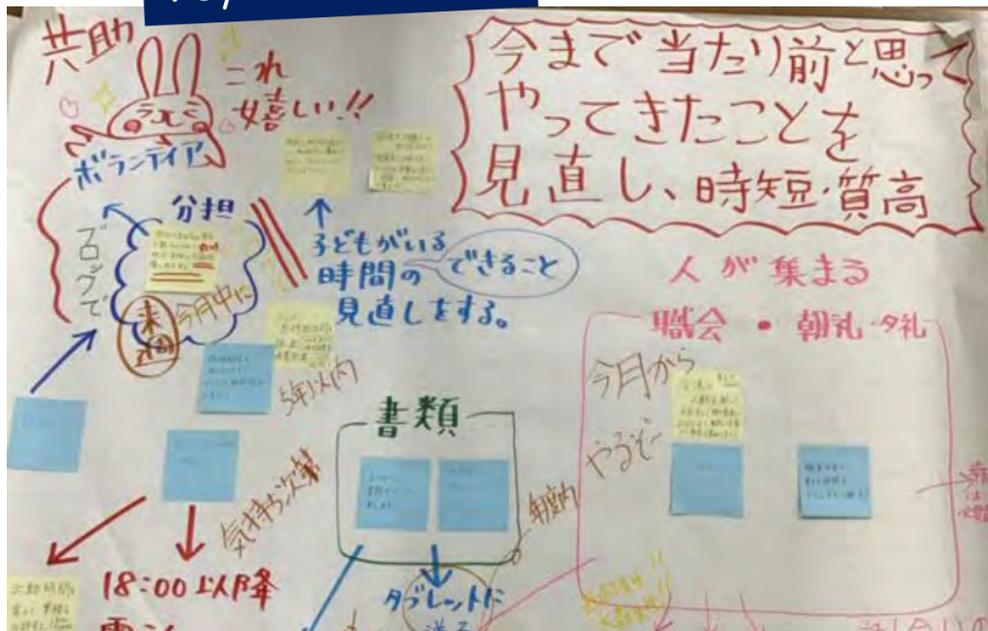


学校と地域との連携はとれていると思っていましたが、本日先生方の現場の生の声を聞く機会を得、今後もできる限り地域の人の資源をいかしていけたらと思います。(学校運営協議会委員の方より)

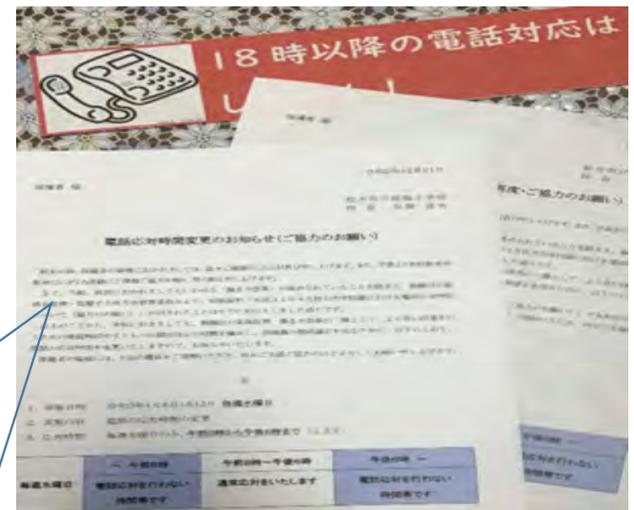
先生方の日々の仕事の多さがよくわかりました。習慣で続いていることも多く、もう少し地域やPTAの協力で先生が子どもと関わる時間を持ってもらえるようにできたらいいなと思った。保護者も積極的に学校と関わっていくことが必要と思った。(PTA役員の方より)

■教職員対象研修■

10/8 招提小学校



これをきっかけに、今までよりも、保護者から、「先生、お疲れ様です」「遅くまで大変やね」などの言葉をかけてもらえて、なんだかホッとします。いつも頑張ってるから、それを認めてもらえているように思えて嬉しいです。



★電話対応時間の設定をスタート
(職員室の意識啓発カードと保護者宛の通知)

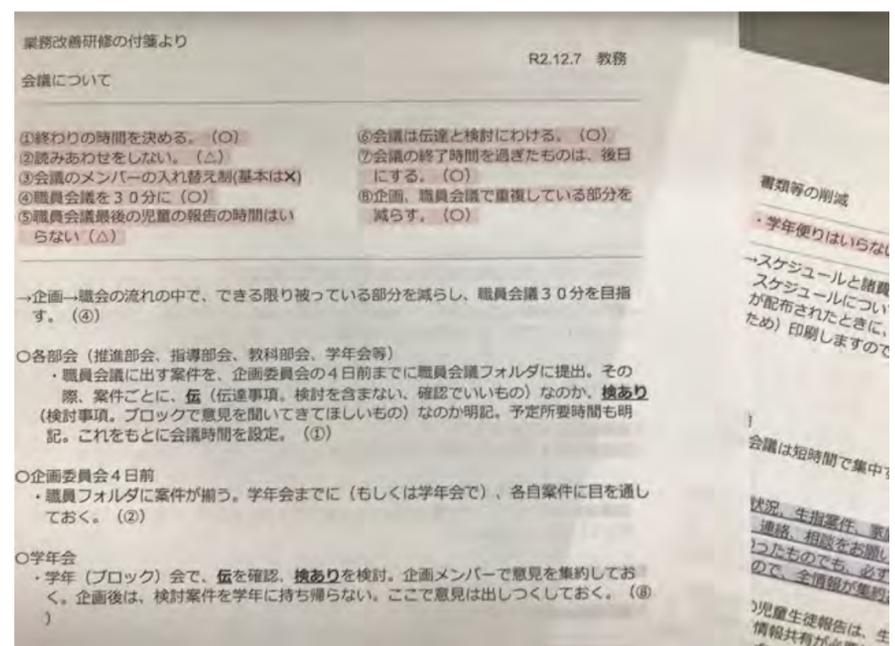
弘岡校長先生に聞きました！

年度当初に、企画委員会や職員会議についての改善に着手し、その後は時間外勤務の削減に向けて取り組みました。2学期、業務改善研修を行い、教職員の意識が変わってきました。そして、校内にチームを立ち上げ、小さなことでも行えそうなもの、目に見えるものから始めていきました。職朝や夕礼、保護者との電話連絡の時間など、既にいくつもの新たな取組がスタートし、順調に進んでいます。今後も、教職員が気持ちを一致して、前向きに取り組むを進めていきたいと思えます。

大森教諭と山中教諭に聞きました！

研修後、まずブロックで何ができそうか話し合いました。担任外の先生が「丸つけ一緒にするよ」と言ってくれたことから、「丸つけは担任がする」という固定観念がなくなりました。自主副担任制みたいな感じです。学校をみんなで支えようという雰囲気が高まっています。また、会議までの資料作成時の一人ひとりの責任感や会議の質の向上も進んでいます。

11/27 川越小学校



★研修で出たアイデアを校内で精査して共有

墨川校長先生に聞きました！

今回企画委員会の活性化に焦点を当てました。企画委員の意識改革が職員会議の時間短縮につながりました。また、学校運営上の案件は会議で確認し皆で守るのは当然ですが、日々の情報は日々共有します。新しい時代を見据えた教育を行うためには情報に近づき正確に読み取り児童のお手本になりたいものです。これを短時間に行えば業務改善につながります。

木村教諭に聞きました！

今回の研修で終わらせず、これからも職員で意見を出し合い、学校チームとして業務を改善していくことが大切です。より必要なことに時間をかけることができるようになれば、児童のよりよい学びに繋がっていくはずですよ。

持続可能な取組にするために

■推進校10校のつながり■

推進校10校を公募（4月）

目標&取組共有会（6月）

Googleクラスルームを使って
情報交流がスタート！（7月）



会議、運動会、児童会行事、専門性、宿題等について、熱い議論を学校全体で繰り広げるこのような機会は、今まで正直なかったと思います。

取組共有会（9月）



一歩ずつ「話をする」「巻き込む」を大切にする

取組共有会（11月）



研修講師：(合)先生の幸せ研究所澤田真由美代表

コロナ禍において様々な負担が大きくなっていますが、今こそピンチをチャンスに変えていく。

取組共有会（9月）



学校教育目標・めざす生徒像に基にした教育活動を実施するためには、業務改善は必要不可欠。働き方改革とカリキュラム・マネジメントを推進するための準備として、校務分掌の再編成、グランドデザインの作成の準備に取り組んでいる。

業務の質を高めることを目標において、やりがいを高めていくことで、残業減もついてくる

取組共有会（10月）



目標は、「あたりまえ・普通の見直し」です。

皆が「当事者意識」をもって、どんどん知恵を出して、ボトムアップできる職場環境での改善こそ、ひょっとしたら、全ての教員が元気になれる改善案を生み出すようにも感じました。

■市教委 & 現場のコア会議■

「教育の質の向上」のため、全員が「当事者」として考える。

コア会議発足（令和2年11月）



今までやってきたからというこだわりを捨て、「一番大切なことは何か」を忘れずに形を変えていくことは必要。



デジタル化の波に乗り、押印や文書の取扱いを見直したい。

12月以降はオンラインミーティングに。時間を有効に活用できました。短時間で質の高い会議を！



押印の見直しが急ピッチで進んでいます。

さまざまな立場の方と情報交流意見交流すると、元気になります。

推進校が受けている研修を教頭全体で経験し、共に考えたい。市教委の中でも研修を開催したい。

事務の共同実施の取組の中で、タブレット活用事例についても、交流していきます。

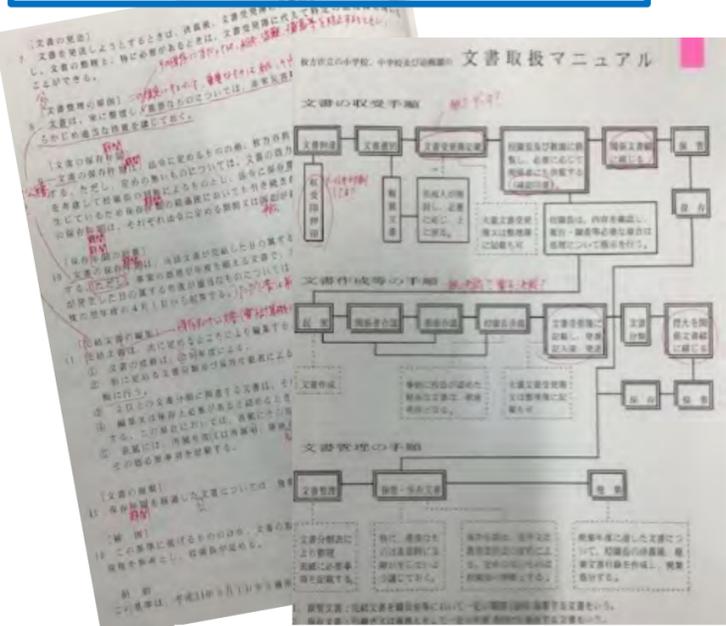
(学校現場より)
業務改善推進校の校長・教頭・事務職員から7名
(市教委より)
総合教育部兼学校教育部参事・教育政策課・学校安全課・教職員課・教育指導課

文書取扱いマニュアルの改訂へ

【Before】
通知文を印刷し、收受印を押し、供覧してから、簿冊に保存する。
(毎日1~2時間はかかる)



【After】
印刷・收受印は必要なく、供覧してから電子保存する。
(毎日30分あればできる!)



コア会議メンバー赤字の入った改定案

働き方改革推進に向けた研修(2月)

教育委員会事務局対象



研修講師：(合)先生の幸せ研究所澤田真由美代表

意識改革は、日々の一つ一つの業務や学校との関わりの中で、共に育てていくものだと感じた。

学校のニーズ収集と市としてのミッションの共有化をしたい。

周りを巻き込むこと。自分の課の本来のミッションを明確に、同じベクトルで次年度の取組について考えます。

業務改善推進校の取組

★開成小・五常小・樟葉小・交北小・蹠跏東小・菅原東小・伊加賀小・東香里中・蹠跏中・長尾西中★

コア会議の立ち上げ(KamiU)

★伊加賀小学校



「学校における働き方改革推進について」(令和2年10月)を活用し、タブレットのアプリロイロノートを活用し、全教職員で付箋交流した様子。P6には、伊加賀小の取組を紹介していましたが、そのページへの付箋もいっぱい!

タブレットを活用した授業づくり、課題作成、家庭学習等を進めることで、印刷量が激減!職員会議もペーパーレス化。紙代が以前の半分程に!

管理職「職員が感じたこと・考えたことを優先したい」
教職員「自分も参画したい」

メンバーは手挙げ式。こうすればみんな便利になるのでは…!? 様々なアイデアが。

会議名「KamiU」は「紙0」をめざしているから。「でもゼロは無理だから「U」にしとこ!」ということで。楽しさも大切に。

仕事への満足感の向上

★蹠跏東小学校

ストレスチェックの結果

- ◎上司の支援 9.5(全国6.8)
- ◎同僚支援 9.3(全国8.2)
- ◎仕事や生活の満足度 6.9(全国5.5)
- △仕事量・負担感 9.8(全国7.9)

高学年の専科制。6年生は週10時間の授業準備時間を確保!!

タブレットを活用した放送朝会。ペーパーレス会議、電子掲示板により、打ち合わせ時間の減少。ロイロノートによる交流や健康観察。

日課表の見直し。職員朝礼を減らし、教室で子どもたちを迎える回数増。

業務アシスタントの存在が、時間の創出や優先順位等、働き方の見直し、気持ちのゆとりに。

コロナ対応や新学習指導要領に伴う評価方法の検討等、時間外の総時間には課題が。業務量についてはスクラップが必要。

PDCAによる着実な歩み

★樟葉小学校

アンケート調査の実施により、職員の声を拾う。現状と課題、改善へ向けての取組案について洗い出し、コア会議で優先順位を決めて実行へ。登校時間の変更、慣例の見直し、ランチタイム学年会、会議の持ち方…



「かえるボード」の実施により、職員が退勤時間を各自設定。個人のタイムマネジメント力を高める目的。また、自分以外の職員の勤務状況を把握することでワークシェアリング等、職場全体の働き方改革を進める。



もともとあったもの(教職員の「健康観察カード」)に「かえるボード」の達成状況記入欄を設け、計画的な業務実施を促す。時間枠で考えるのではなく、目標達成状況に着眼することでタイムマネジメント意識を上げる。

慣れによる形骸化→コア会議で対策を熟議取組のねらい・価値を再確認→必要な取組として再生し、効果的な取組へ。

健康観察表(教職員用)

所属 校方市立樟葉小学校 職名 名前

(症状があった場合に、チェック)

※土・日の体温の記入をお願いします。

月	日	曜日	体温	せき	のどの痛み	鼻水・鼻づまり	体調(異常しだるさ等)	その他(におい・咳・頭痛・下痢等)	かえるボード達成状況
1	火								
2	水								
3	木								
4	金								
5	土								
6	日								
7	月								
8	火								
9	水								
10	木								
11	金								

【POINT】

当初「かえるボード」を始めた目的に立ち返った時、職員の働き方改革を進める上で効果的な取組であったことに間違いはない。トライ&エラーの視点は、失敗したから捨てるという安直なものではなく、どうすればより効果を上げられるかと繰り返し、状況に合わせて更新していくこと。すべての取組についてPDCAによる見直しが大切。

推進校同士のつながりから、よい取組をGet!!

Classroomで推進校の取組交流をきっかけに、助け合える関係へ。まねることから!

- ◆健康観察の取組を知り、教職員と共有。訪問し、レクチャーを受ける。
- ◆他校の教頭通信に刺激を受け、自校でも、業務改善通信を発行。
- ◆専科制の利点を聞き、来年度にいかす。
- ◆クリーンデスクに刺激を受け、自校でもチャレンジ。
- ◆アシスタント活用について交流し、有効活用。

業務改善推進委員会からの提案

期間ごとにテーマを決め、職員が共通認識をもって業務改善に取り組む仕組みを作る。
(一例) 会議のスリム化・効率化。

- ◆会議の終了時刻の決定。
- ◆事前に会議資料に目を通しておくルールを徹底。
- ◆話し合う内容とゴール設定を明確に。
- ◆タブレットを利用し、簡易な議事録を共有。
- ◆各自、長く話さない。簡潔に!
- ◆参加人数の精選。

5・6年生の一部教科担任制

- ◆一つの教科の教材研究に時間をかけることができ、専門性が出て、より深い授業ができる。トータルに見て、教材研究の時間減・質の向上。
- ◆学年全体の児童について共有し指導・支援にいかせる。
- ◆児童も、1時間1時間気持ちの切り替えができ、学習に対する持続力がついていく。
- ◆担任同士の交流が増え、児童の意外な一面を発見。

3年計画の働き方改革

モチベ・マネジメント(R2)

- ◆意欲改革
「トップダウン」から「ボトムアップ」へ
- チーム・マネジメント(R3)
- ◆組織改革
「鍋蓋型」から「ピラミッド型」へ
- タイム・マネジメント(R3)
- ◆意識改革
「野球型」から「サッカー型」へ

効率よく、気持ちよく!

ブログ機能を利用し、遅刻・出欠連絡

- ◆朝の電話対応時間が減少。
- ◆保護者の方々への電話連絡への負担も軽減。
- ◆連絡のあった内容については、エクセルで一元管理。

パソコンデータの断捨離期間設定

- ◆学期ごとにデータの断捨離期間を設定し、データ整理。
- ◆容量オーバーの回避、重複によるミスを防ぐ。

【Clean Desk】

個人情報・私物の管理徹底／共有物・共有資料の管理徹底



ワークライフバランス ～プライベートの時間があるか?!～

- ◆起きている時間のほとんどを学校で仕事しているという状態から、プライベートも充実させることを大切に。
- ◆17時に就業チャイムを鳴らし、時間を意識。
- ◆ノー残業デーを徹底する。
- ◆働き方についてのアンケートを取り、教職員と共有。よりよい職場環境を模索。
- ◆「枚方市中学校部活動指針」の遵守。

慣例行事の見直し

- 「今までやってきたから」ではなく、「やる意味」「効果」「質>量」で考える。
- ◆運動会を午前開催。例年熱中症が懸念されるため、午前開催は、保護者からも思った以上に好評だった。学校規模に合わせ、来年度も柔軟に対応する。
 - ◆中学1年生宿泊行事の見直し。目的は変えず、年2回日帰りの取組に。保護者負担も減。準備時間も減。

よい教材はみんなで使おう!

共通教材プリントを作成し、使用する。

- ◆教科ごとに共通教材を作成。
- ◆生徒にとって学習効果の高い教材を、共に作成し、使用することで、業務の平準化・効率化につながる。
- ◆教員個人に任せず、同じ教科担当者同士で考えることで、授業力や指導力の向上にもつながる。

業務軽減・時間削減

- ◆登校時の門当番制(8時から)を廃止。安全監視ボランティアの方々(地域)に協力依頼して実施。朝の時間外勤務の負担軽減。
- ◆児童の登校時間を変更
「8:00~8:20」→「8:15~8:25」に。
教職員の勤務開始時刻(8:30)に近づけ、始業前の時間外勤務時間の削減をめざす。
- ◆会議時間の見える化
案件の時間を、職員会議案件のレジюмеに記載。
タイムマネジメントの意識UP!

業務改善への意識の変化

- ◆「学校は超過勤務時間削減に向け、校内の業務改善を図り教職員の働き方改革に取り組んでいる」
→30%UP!(RI比較)
- ◆「超過勤務時間削減に向け、自身で業務改善を意識した働き方を行っている」
→17%UP!(RI比較)
- ◆業務改善推進校としての取組を知ってくれた保護者が、「学校、頑張ってるんですね」と言ってくれた!

提案持ち時間を提示

- ⇒ 会議時間の短縮
- ・会議の効率化を図る。
- 提案者のプレゼン力の向上

令和2年度
枚方市立樟葉小学校

職員会議
～11月19日(木)16:00～
場所:図書室
「企画委員会・・・11月12日(木)15:45～」

司会:教務
記録:1年

1. 校長より 20分		
2. 教頭より 5分		
3. 行事予定(11月)・・・	(教務主任	2分
4. 2学期終業式・3学期始業式・・・	(教務主任	1分
5. 地区児童会・・・	(安全部	5分
6. 不審者対応避難訓練について・・・	(安全部	5分
7. 引き渡し訓練について・・・	(安全部	2分
○ 指導人権部より ・教務主任より		

業務アシスタント活用事例



作業効率の向上につながる配置・整理整頓
(左:五常小 右:東香里中)

生徒の自己肯定感を高める取組。欠かせない教育活動。
(長尾西中)

掲示物作成や掲示の際、アシスタントさんが活躍!



(「素敵な長尾西中生」ボランティア清掃の様子)



(タブレットドリルや自学自習を頑張った生徒たち)

(児童の自主学習用プリントコーナー)

(生徒が探しやすい落とし物コーナー)



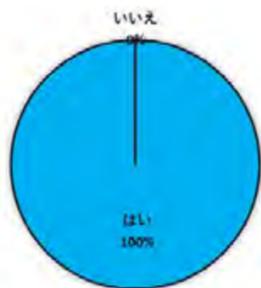
子どもたちにとっても、
ストレスない空間を!
(樟葉小・東香里中)

【業務アシスタントの主な業務内容】

- ◆C4thなどへの入力
(クラブ活動・委員会活動・歯科検診結果 等)
- ◆環境整備(校内清掃、教材室・備品整理)
- ◆学期末テスト及び児童質問紙調査の結果入力
- ◆採点業務
- ◆各種受付業務・電話対応・インターフォン対応
- ◆配付物やテスト、プリント等の印刷
- ◆教材の作成
- ◆身体測定補助
- ◆給食補助(食缶受け渡し等)
- ◆送付された配付物の仕分け作業
- ◆iPad配付準備作業
- ◆演台カバー、カーテン等の作製

【教職員アンケート(五常小独自)より】

◆業務アシスタントの活用により時間外勤務時間は減少したと思いませんか。



- ・印刷にかけていた時間を教材研究にあてることができている。
- ・仕事の優先順位が意識できていた。
- ・業務依頼するため、計画的に仕事をす

【教職員アンケート(開成小独自)より】

◆業務アシスタントさんに依頼したことで生まれた時間は、どのようにいかされましたか。



- 教材研究や研修 35.8%
- 学年会や打合せ 28.6%
- 採点、教材作成 10.7%
- 残業せずに帰宅できた 10.7%
- 校務分掌の仕事 7.2%
- 同僚のサポート 7.1%

タブレット活用事例

「学校における働き方改革推進について(実践事例集)令和2年10月」からの広がり

職員室で欠席連絡対応・伝達。

※教職員の勤務時間は8:30からですが...

出勤したとたん、欠席連絡の対応。朝はすることがたくさん!余裕がない...

タブレットで、欠席連絡の確認。余裕を持って、児童・生徒を教室で迎えられる。

おはよう!!(気持ちに余裕)

職員朝礼で情報共有

タブレットで情報共有

先生が来るまで、朝の学習を頑張ろう!

朝の学習から先生と一緒に!

<教職員の心の余裕>がうまれます。

朝、欠席連絡等(電話対応)や健康管理シートの確認(コロナ対応)をしていた時間を子どもたちとの時間や授業準備の時間にあてることができるように。

<保護者の負担軽減>になります。

連絡帳を近所の友だちに預けたり、朝から学校に電話したりすることなく、スマートフォンなどで連絡可能(欠席や健康管理について)に。

★子どもたちの育ちにとって大切なことについては、会議等でしっかりと話し合っています。

Googleフォーム活用

★交北小学校

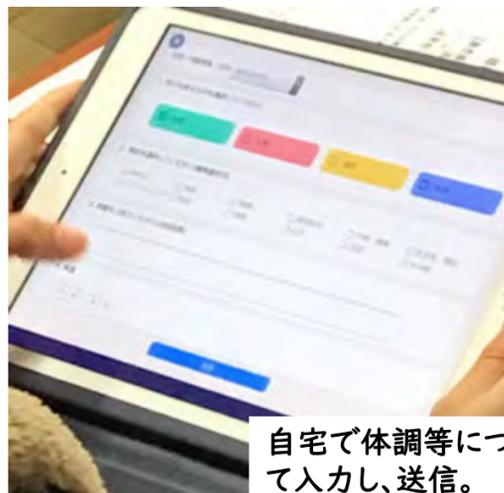
タブレットが先行導入された高学年からGoogleフォーム活用した健康観察を開始。入力の手順を説明し、児童に習得させた。



これによって、データで一覧表示できるため、児童の体調を一目で確認できるようになりました。紙で一枚一枚確認していたのとは時間も労力も減りました!

ロイノートで出欠連絡

★蹉跎東小学校



自宅で体調等について入力し、送信。



ロイノートに「出欠連絡」という機能があり、特別な設定をせずに使い始めることができました。これまで紙の健康観察カードに記入していた時間と比べると10分くらい時間の短縮ができています。その分、子どもたちのために使える時間が生まれました。

学校教育自己診断の電子化

★五常小学校

【Before】

印刷、回収、内容チェック、スキャンなど
1ヵ月かかっていた。

【従来の方法】

- ①アンケート鑑文作成
- ②SQSを使ってアンケート用紙修正
- ③アンケート用紙印刷(500枚程度)
- ④回収用封筒に説明文印刷
- ⑤手紙を配付
- ⑥アンケート用紙回収(2週間程度)
- ⑦封筒から取り出す。(500枚程度)
- ⑧マークシートの塗りなおし・消しゴムかけ
- ⑨マークシートをスキャン(500枚程度)
- ⑩スキャンしたデータをSQSでデータ化
- ⑪スキャンミスしたデータの確認
- ⑫再度データをスキャン
(⑩~⑫を複数回繰り返す。)
- ⑬データを確認
- ⑭データをExcelに貼り付け
- ⑮グラフ内容の修正・確認
- ⑯文章回答の打ち込み・整理
- ⑰データ及び文章の内容確認
- ⑱データ結果の印刷

【POINT】

従来の方法では、集計作業中は、他の業務はできない状態でした。フォーム使用で、全てデータ上で集計作業が終わるため、心理的負担も軽くなりました。(教頭先生より)

【After】

フォームでアンケートに回答(内容チェック不要)、自動集計、結果がすぐ分かる。1週間で全作業完了。

【Formで回答】

※希望者には紙媒体も配付しました。

- ①アンケート鑑文作成
- ②Formでアンケート作成
- ③手紙を配付
- ④全校にミルメール送信
- ⑤メ切1日前にミルメール送信
- ⑥フォームからExcelに変換
- ⑦データを確認
- ⑧データをExcelに貼り付け
- ⑨グラフ内容の修正・確認
- ⑩文章回答の整理
- ⑪データ及び文章の内容確認
- ⑫データ結果の印刷



6年生:アンケート中の様子
回答にかかった時間は約5分



保護者や子どもたちも回答時間が短縮!!

ビブリオバトルの投票の電子化

★蹉跎中学校

活発なバトルが!!

【Before】

放課後に時間をかけて、紙集計。
結果は翌日以降。

【After】

自動で集計。
結果がその場で発表可能に!

どの本に投票しようかな・・・
迷うなあ



教員画面では、結果が即座に集計されグラフ化されていく。

画面では、発表された本の名前が並び、生徒はここから一つ選択。

1位は、『ワンダー』に!

学校における働き方改革の目的

～教職員が元気な学校は、子どもたちも元気な学校～

これまでの働き方を見直し、教職員一人ひとりの心身の健康保持の実現と、誇りややりがいをもって勤務することで、子どもたちに対して、効果的で充実した教育活動をおこなうことをめざす。

意識改革

- ・「時間を意識した働き方」へ。限られた時間を最大限に有効活用し、効果的で充実した教育の実現をめざす。
- ・働き方改革研修の実施。
- ・業務改善推進校の取組好事例の発信。
- ・専門コンサルタントによる研修・助言。
- ・原則スクラップ&ビルド。

学校指導体制の整備

- ・部活動ガイドラインの遵守徹底。
- ・研修内容、実施方法の精査による効果的、効率的な研修の実施。
- ・市教委による学校訪問体制の再構築。

事務業務の軽減

- ・業務アシスタント活用（推進校10校）。
- ・自動採点システム活用（中学校3校）
- ・校務支援システム活用
- ・タブレット活用

時間管理の徹底

- ・出退勤システムを活用した在校時間の適切な把握。
- ・学校⇔家庭の電話対応時間の設定。
- ・市教委⇔学校の電話対応時間の設定。
- ・学校閉庁日の設定。
- ・定時退庁日の徹底。

教職員のメンタルヘルス対策推進

- ・働きやすい職場環境づくりの徹底。
- ・ストレスチェックを年2回実施。
- ・1月あたり時間外勤務100h以上又は2～6月平均80h以上の教員全てについて、産業医による面接指導を行い教員の健康管理を徹底。

学校における働き方改革（これまでの教職員の働き方の見直し）は、子どもたちに対して、効果的で充実した教育活動をおこなうため取り組むものです。

大切なことは、時間は限られているということ。
その中で、

- 1、授業力を磨くこと。
- 2、日々の生活の質・教職人生を豊かにすること。

自らの人間性や創造性を高めましょう。

【働き方改革に関わる資料】

♪「学校における働き方改革推進について」
（令和2年10月 枚方市教育委員会教職員課）

→→→→→



♪「枚方市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」→
（令和2年4月 枚方市教育委員会）



♪「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」
（平成31年3月 文部科学省）

→→→→→



♪「学校の働き方改革」公式プロモーション動画
（文部科学省）

→→→→→

